

⑫-1 「舞鶴市をおおう図書館サービス網」を再編する

□全市全域サービス網の再編整備

すべての市民に適切な図書館サービスがつながるために、住民生活圏や地域拠点や移動手段を把握します。中心図書館や分館図書室や自動車図書館のサービスポイントをネットワークして、おおきなまちづくりのように図書館システムを再編します。舞鶴市図書館を社会システムデザインとしてとらえて、図書館基本計画を4つの施策で組み立てます。

1. 舞鶴市図書館システムのセンターとなる中央図書館(人・資料・施設)を整備する
 2. 5地区に図書分館機能を「情報の蛇口」として定点配置、連携活性化し運営する
 3. 地域サービス拠点・施設100箇所を想定して、自動車図書館(BM)を定期運行する
 4. 小中学校図書館の整備充実施策を支援し、舞鶴市図書館システムとして連携する

(1) 中央図書館の役割

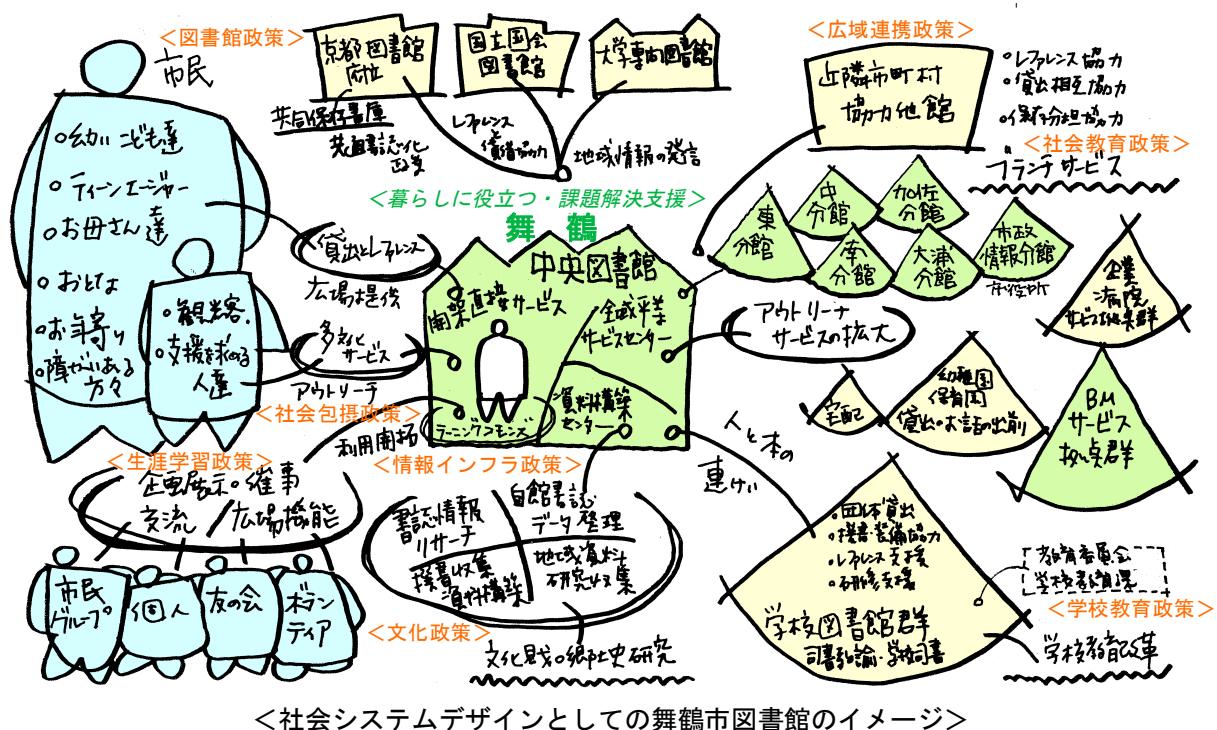
中央図書館は来館する市民に直接サービス(資料情報提供)や場の提供を行う他、調査・課題解決相談や全市域から中継されるレファレンスに応えます。全市システムに流通する図書館資料の選択・収集・整理・書誌情報化を行い、配本・入替え・除籍・保存等の資料構築と管理を行います。国や府や他市図書館その他機関との相互協力の窓口ともなります。舞鶴市サービス網全体の企画・運営・管理・PR等の業務を行います。自動車図書館B.M.のサービス基地となります。集会・展示や市民活動機能、全市の書庫収蔵機能を備えます。

(2) 5地区の図書分館機能の役割

人口集中した地域(1～1.5km)や地域圏中心に分館機能を置き、予約と貸出しを行う。一定数の特設図書(1万冊程度)を置き、要望や予約で頻繁に本館から資料入れ替えを行う。情報検索や予約を支援する専門職員の配置を重視し、開館曜日の設定など運営を工夫する。身近に資料入手ができる全市情報水道の蛇口として、図書館システムの連携と強化を図る。当面は東、中、南、加佐、大浦の5箇所に分館機能を想定し、将来は市役所の市政情報室や議会図書室も専門職員を配置した分館として、情報サービスの連携や蓄積を図りたい。

(3)自動車図書館(BM)の役割

現状の舞鶴市図書館システムの3分館では、広域な郊外部市民や地域施設に居る市民に図書館サービスがつながらないことが判りました。それぞれの生活像に対応した地域施設や地域拠点100箇所をサービスポイントとして、BMでアウトリーチサービスをします。中央館には拠点毎に対応する準備書架と専用資料を整えます。学校、幼稚園保育園、病院、福祉施設等で希望施設から廻り、BMや配本車の増設で約100箇所を月2回巡回も可能です。BMアウトリーチサービスは状況や要望変換への対応性が高い低費用で効果的な施策です。



※図書館の設置及び運営上の 望ましい基準

2012改正施行 文部科学省
公立図書館を地方自治体が
設置し運営をはじめる時に
参考とするように告示され
施行された、望ましい基準。
全体は、図書館サービス基本
計画の構成となっている。
自治体はこれを下敷きに、
地域性を踏まえて、独自の
図書館基本計画という実施
政策をつくることができる。

二、設置の基本の1 では、市は、住民に対して適切な図書館サービスを行うことができるよう、住民の生活圏、図書館の利用圏などを十分に考慮し、市立図書館及び分館等の設置に勉めるとともに、必要に応じ移動図書館の活用を行うものとする。併せて、市立図書館と公民館図書室等(分館機能)と連携推進することにより、当該市の全域サービス網の整備に勉めるものとする。と記している。

※街中に育つ図書館プランチ

- ・全市に広がるB.M奉仕拠点群は小さな図書館分館機能です。身近に図書館がやってきます。
- ・小中学校図書館は、児童生徒の一番身近な図書館機能です。文科省第6次学校図書館図書等整備事業の応援を活用して学校図書館の充実を図りたい。

⑫-2 広域な舞鶴市域に中央図書館と5分館と地域奉仕拠点を再配置する



□96施設拠点

	新舞鶴小学校	みづの 舞生井
	三笠小学校	グリー
	倉梯小学校	ハーテ
	倉梯第二小学校 ★	やすじ 中デイ
	与保呂小学校 ★	ナダエイ
	志楽小学校 ★	リハフ
	朝来小学校 ★	デイサロ
	大浦小学校 ★	デグレス
小学校	中舞鶴小学校 ★	デコサビス
	明倫小学校	こころ
	吉原小学校	真愛の せいはい
	余内小学校	ニチエ
18	池内小学校 ★	加佐テ
	中筋小学校	カーテ
	福井小学校 ★	さくら
	高野小学校 ★	ふれあ
	岡田小学校 ★	荒木ケ
	由良川小学校 ★	料生井
	青葉中学校	ハーモ
	白糸中学校	みぢかわ
	和田中学校 ★	リハフ
中学校	城南中学校	あいあ
	城北中学校	もくも
7	若浦中学校 ★	放課後等テ
	加佐中学校 ★	くんく
	中央公民館(中分館)	にこに
	南公民館(南分館)	ヒトメ
	西公民館(西土産資料館)	もくも
公民館等	加佐 公民館(加佐分館)	みらし
8	大浦会館(大浦分館)	8 ぐるん
	城南会館	★は、[遠隔地
	まなびあむ	
	あそびあむ	

る ★ タンポポこども園 ★ 舞鶴聖母幼稚

★	アントワネットこども園	★
★	平 こども園	★
★	昭光保育園(こども園)	★
★	さくらこども園	★
★	やまもと保育園	★
★	朝日幼稚園(こども園)	幼
★	森の子らんど(こども園)	園
★	うみべのもり保育所	11
保育所	中保育所	
★	東山こども園	
★	相愛こども園	
★	ルンビニこども園	
18	なかすじこども園	※認可外
★	永福こども園	一般向4
★	永福こども園 園舎会議室	= 11か所
★	舞鶴こども園	★
★	八雲保育所	★
★	岡田こども園	★
★	星	★
★	倉橋幼稚園	
★	森の子のび	
★	橋幼稚園	
★	シオン幼稚園	
★	中舞鶴幼稚園	
★	志業幼稚園	
★	ひばり幼稚園	
★	池内幼稚園	
★	朝来幼稚園	

上幼稚園

□ 舞鶴西駅隣接地に中央図書館を配置する

- ・全市図書館システムの中枢管理運営機能をもつ。
 - ・30万冊開架の広く深い資料情報世界を提供する。
 - ・都市の広場として人をつなぎ会わせる図書館。

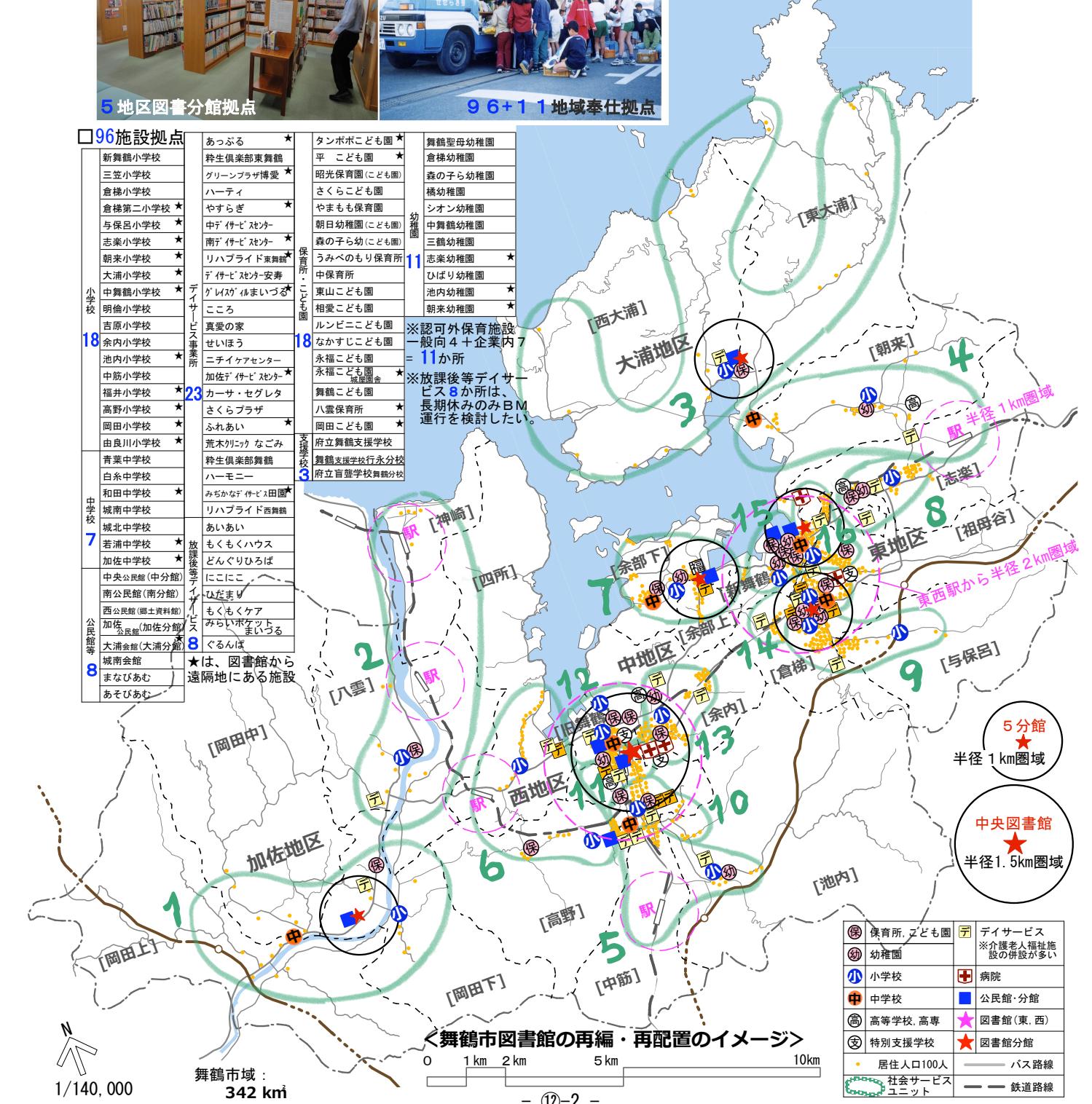
□ 5 地区に図書分館機能を配置魅力化する

- ・中、南、加佐分館に大浦分館と東分館を改装する。
 - ・資料構成と場のしつらえと通信環境を改善する。

□ 96 + 11の地域奉仕拠点につながり届ける

- ・図書館サービスが出掛け、市民とつながる。
 - ・107の地域奉仕拠点施設群も、図書館のブランチ。

※ブランチ：枝、分館機能



⑫-3 BM. 自動車図書館のアウトリーチサービス網

□ 全域奉仕のための自動車図書館(BM)サービスの運行

市民の5割、約39,000人の方々は、現状の東・西図書館と3つの分館の徒歩利用圏域から外れて暮らしています。世代別に生活や移動の様式も分化して昼間の滞在施設が多様です。また、舞鶴市では、高齢化や公共交通手段不充足という都市課題も認識され、**不自由ない図書館アクセスには課題**があります。そこで、全ての市民に平等に、その生活スタイルに合わせて図書館サービスがつながるために、自動車図書館によるアウトリーチサービスを構想します。

□ 図書館から遠い、半分の市民に届くBMアウトリーチサービス

自動車図書館(3500冊搭載)と配本車(600冊)を用いて、スタッフ2人(司書1人と応援運転手)が小中学校・幼稚園保育園・老人施設・病院・地域中心店舗、郊外の駅や移動販売車駐車場で資料提供します。(50~100箇所の拠点を想定)

運行は、平日の週4日で、一日4~6ポイント、16コースを仮想します。当面は対象施設の半分50拠点が受入れを希望されるとして2週間に一度訪問。洗い出された全て100拠点を廻る段階では、同じシステムで月に一度訪問か、2週間に一度を守るように配本車との分担やBM2台体制化など対応します。

開館後当面の年間貸出目標冊数の8%、4万冊貸出をBMサービスの目標にします。サービスポイント選択(費用対効果)を検証し、事業を柔軟に運営します。

経費は、車両経費、2名週4日の人件費、BM資料費などが想定されます。併せて、新中心館整備に含めるべき基地と設備の計画条件(車庫、書庫、設備スペース)を構想します。

B M用資料は副本が必要になり専用書庫が必要で、BMと配本車車庫、設備やコンテナ作業スペースも必要です。

16地域のサービスユニット



□ BMサービスの運用イメージ

- 居住環境の徒歩圏として市域を眺めると、6つ程の中心支援施設を囲む地域が16ありサービスユニットとして想定できる。
- B Mサービスポイントとして想定される施設数は全て要請があれば、107箇所ある。
- 全施設に月1回なら、施設以外ポイントを加え、訪問数は最大で月96箇所となる。
- B M 1台で週4日、16コース運行、96箇所に対応できる。配本車運行の併行や、全施設要請までの時間や歩留まりを読むと、施設別の月訪問回数の調整もできる。

※5つの分館や小中学校や幼稚園保育園へは、図書補充と敷地内での貸出しを想定するが、中央図書館徒歩圏内の施設であれば、「学級招待」等でBM奉仕の割愛も可能になるだろう。

※郊外のサービス拠点のイメージとしては、駅舎前の駐車場や、とくしま販売などの集客拠点や時間帯に協調する手法も考えられる。

※他市の事例では、バス改造型BM採用で普通マニュアル免許の職員運行を可能にしたり、高齢者雇用制度で運転手を確保するなど工夫がある。



小学校へのサービスは休み時間に合わせて出かけて店を開き。

利用が集中するので配本車のコンテナも並べて貸出をする。



保育園や幼稚園へのサービス。要望に合わせて紙芝居や絵本など図書を入れ替える。お話をボランティアと一緒に出かける。



中学校や学童保育には放課後の時間帯に合わせるとよい。
先生リクエストの授業用資料や団体貸出教材も運んでゆく。



病院や施設での展示貸出サービス。入所者患者の他に夜勤で忙しい看護師やスタッフも利用する。予約本を配達する。

⑫-4 学校図書館の充実方策と公共図書館連携支援

□ 学校図書館充実方策を立案し具体化する準備推進体制を立ち上げたい。

- 第一に、舞鶴市の18小学校 7中学校の学校図書館の状況を統計的に把握したい。(学校毎に児童生徒1人資料費、学校毎の貸出冊数、児童生徒1人年間貸出冊数)
- 文科省方針や先進市に倣い、現状分析から改充実整備計画を立案したい。
- 研究計画体制は、小中教育研究会図書館部会、校長会、舞鶴市学校教育課、舞鶴市図書館、教育委員会などの参画協働で進めて行けることが望ましい。

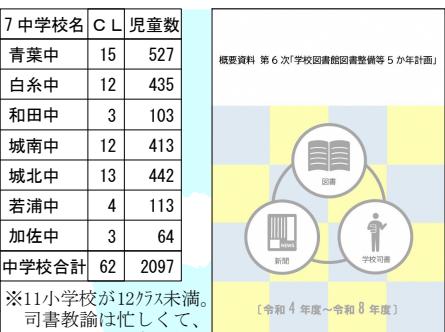
□ 「文科省通知と第6次5カ年計画」で学校図書館の充実を立案したい。

- 第一に、令和4年度からの「文科省第6次学校図書館図書等整備5カ年計画」の方針に倣い、地方財政措置を活用し、3つの未整備の課題解決をはかりたい。
 - ①現状の学校図書館の資料について計画的な整備に取り組みたい。
 - ②和英新聞や専門紙配備ほか情報センター化やリテラシー教育に取り組みたい。
 - ③現状0配置である学校司書の適切な配置を具体化する方策に取り組みたい。

□ 公共図書館は、全市図書館システムとして学校図書館充実を支援したい。

- 第一に、学校図書館の目的は学校教育の充実向上にある。加えて広く深い学び、調べ学習、豊かな読書環境を支える図書資料構築や情報の提供は、学校図書館単独で達成することはむずかしい。これを**公共図書館**が連携して支援したい。
- 学校図書館群が充実整備されていく過程で、**舞鶴市図書館システム**に連携して資料受入れ、共通書誌化、共通総合運用など、先進市方式の導入も考えられる。
- 学校教育は生涯学習の入口であり、図書館利用リテラシーを青少年期に身につけることにつながれば、図書館で生涯学び続ける舞鶴市民の創出施策になろう。

18小学校名	C L	児童数	7中学校名	C L	児童数
新舞鶴小	20	585	青葉中	15	527
三笠小	6	144	白糸中	12	435
倉梯小	17	459	和田中	3	103
倉梯第2小	12	248	城南中	12	413
与保呂小	6	126	城北中	13	442
志楽小	14	368	若浦中	4	113
朝来小	6	121	加佐中	3	64
大浦小	6	52	中学校合計	62	2097
中舞鶴小	8	230			
明倫小	12	284			
吉原小	5	33			
余内小	20	362			
池内小	5	43			
中筋小	13	628			
福井小	6	100			
高野小	6	136			
岡田小	6	71			
由良川小	5	46			
小学校合計	175	4036			



※11小学校が12クラス未満。
司書教諭は忙しくて、図書館司書不在状態。
全校に学校司書不在。

※児童生徒数の出典：
令和3年5月統計

全校で利用統計が取られない。
貸出冊数、資料費とともに増えていない。

※文部科学省HP
第6次「学校図書館図書等整備等5か年計画」概要資料

